

キャラクター名 ヒルダ・グリーンムグレン	プレイヤー名
-------------------------	--------

種族	ダークドwarf	種族特徴	暗視、黒炎の担い手		
生まれ	神官	性別	女	年齢	28
冒険者Lv	5	経歴	敵対する者がいる(いた)(経歴表C1-2)		
経験点	0		忘れられない恐怖を体験したことがある(経歴表A4-3) 監禁されたことがある(経歴表C4-2)		

技	6	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	15	1		22	3	ファイター	5		
体	10	敏捷度	1			7	1	プリースト/ミリツァ	4		
		筋力	9	3		22+2	4	レンジャー	1		
心	10	生命力	3	3		16+2	3	セージ	1		
		知力	2			12	2	エンハンサー	5		
		精神力	15	5		30	5	アルケミスト	3		

戦闘特技		言語	会話	読文
武器習熟A/ソード	1-281p	交易共通語	○	○
魔力撃	1-292p	ドレイク語		○
頑強	1-279p	ドワーフ語	○	○
	p	汎用蛮族語	○	○
	p	魔動機文明語	○	○
	p			
	p			
	p			
	p			
	p			
	p			
	p			

練技/呪歌/騎芸/賦術	
キャッツアイ	
ビートルスキン	
マッスルベアー	
アンチボディ	
リカバリィ	
パークメイクル	
ヴォーパルウェポン	
ヒールスプレー	

技能	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本ダメージ	必要ランク	筋力	回避力	防護点
	ファイター	5	8	6	9	21	-2	8
	グラブラー	0						
	フェンサー	0						
	シューター	0						
鎧と盾						必要ランク		
鎧						"つきまとう"プレートアーマー+1		
盾								
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)								
回避技能						ファイター 合計値		
						4 9		

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	"重い"デストロイヤー アビス強化(蛮族への追加ダメージ+2、必筋+2)	2H	22	1	2d+ 10	10	11	35										
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP	魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
3 _m	12 _m	36 _m	2d+ 4	9	50	神聖魔法	4	6			
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP							
2d+ 3	2d+ 0	2d+ 8	2d+ 11	44							

装備品	説明	装備品	説明
頭 スマルティエのヘッドバンド	HP回復効果を受けたときMPが1点回復/スマルティエ		
耳 聖印	神聖魔法の行使に使用		
顔 アイソアーマスク	防護点+1、遠隔攻撃を誘引する		
首 熊の爪	練技【マッスルベアー】の筋力B+1		
背中 スマルティエのハーファント	効果なし/スマルティエ/4-2=2 生命力+2		
右手 スマルティエの怪力の腕輪	筋力+2/スマルティエ		
腰 スマルティエの武道帯	練技【リカバリィ】の回復量に生命力8を加算/スマルティエ	左手 信念のリング	精神抵抗力判定+1
足 韋駄天ブーツ	移動力+5		
その他アルケミーキット	賦術を使用できる		

その他メモ	自動失敗チェック
旅に出た理由：蛮族を倒すため(1-1)	
「私は復讐者《アベンジャー》にして破壊者《デストロイヤー》・・・貴様のその首、叩き落とす！」	□□□□⑤
種族ダークドwarf。慈愛と復讐の女神ミリツァの神官戦士。	□□□□⑩
蛮族側の鍛冶師の父と2人で暮らしていたが、父が病気で働けなくなったところを用済みとされ上位蛮族に殺されてしまい、幼い頃から無理やり次代の鍛冶師として働かされる。その後、ある冒険者パーティに助け出された。生まれたときから蛮族側だったので当然警戒したが、その中にいたライフオス神官に【マインド・センディング】をかけられ、本心からの救助と知り、心を許した。同行して人間の街へいき、街の中心地のライフオス神殿に預けられる。しばらく神殿で過ごしていたが、ダークドwarfゆえにドwarfを中心とした街の信者からバッシングを受けた。冒険者のライフオス神官の伝手で街の外れのミリツァ神殿に移り、育てられる中で人族側であるという自己認識を得た。成人を迎えた後はそのままミリツァ神官となる。	□□□□⑮
月日が流れても父を殺した蛮族に対する恨みの炎は消えることはなく、神官として神殿を訪れる信者達の嘆きを聞き続け更に燃えあがった。	□□□□⑳
	□□□□㉑
	□□□□㉒
	□□□□㉓
	□□□□㉔
	□□□□㉕

